

FUJIEDA ROTARY CLUB

藤枝ロータリークラブ会報

例 会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail club1972@fujieda-rotary.org

会長：青島 彰 副会長：仲田 廣志 幹事：大塚 博巳 副幹事：池ノ谷 敏正

第1935回

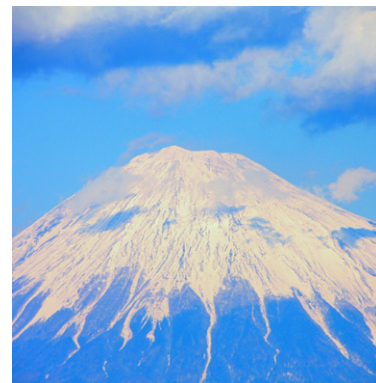
- ソング 四つのテスト・我が藤枝ロータリー
- ソングリーダー 栗原 毅君



【2011-2012年度 RIテーマ】

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

カルヤン・パネルジー



【富士山】

写真提供：櫻井龍太君

■ 会長報告

青島 彰君

1月26日、1月31日の2日間、静岡県防災センターの主催で防災マイスター制度の講習会を受けました。受講者は社会福祉法人の職員が多く、80人程が受講しました。第1日目は地震の基礎的な知識を勉強し、後半は避難所の運営の実践訓練を受けました。仮の学校を避難所に設定し、被災者の状態のカードがありその条件の被災者をどのように収容できるのかシミュレーションゲームです。被災者カードの内容はけが人、ハンデキャッパー、またペットと避難してきた人、トイレの問題、救援物資の引き渡し等々、次から次へと困難がやってきます。机上ではありますが少しの経験がいざというときに役立つことと感じています。

第2日目は災害後のこころのケアについて講義がありました。災害後には大きく分けて3つのストレス状態となるケースが多くなります。大きな災害を受けると恐怖やショックを感じたことによるストレス(トラウマ反応)2ヶ月くらいはこの反応があらわれる。災害で大切な人や物、場所、思い出を失った事によるストレス(喪失反応)防災準備を確実に行わなかったことや、適切に指示できなかったりした事への罪悪感が精神的不調となって表れる。災害後の生活の変化、避難所などの不自由な生活、生活を再建するうえでの不安などが継続することによるストレス。こころのケアは食事、睡眠がある程度落ちつく2ヶ月頃より始めるのが一番良いタイミングだそうです。災害後は休憩をこまめにとり、一日5時間以上の睡眠を心がけ、

食事をきちっと取る、お酒の飲み過ぎを避け、周りの人と会話をすることが早く改善できるコツだそうです。

■ 幹事報告

大塚 博巳君

- 第2620地区より
社会奉仕委員会「富士山世界文化遺産両県県民会議」入会のご案内が届いております。
- 第2620地区より
ザ・ロータリアン誌が届いております。
- 事務局より
藤枝クラブ会費・米山記念奨学会寄付領収書を配布します。

■ 出席報告

平野 純也君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
32/43 74.42%	38/44 86.36%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 赤堀君 ○石割君 ○小西君 ○酒井君
- 櫻井君 ○杉浦君 ○玉木君 ○仲田晃君
- 畑君 ○水野君 島村君

(2)メイクアップ者

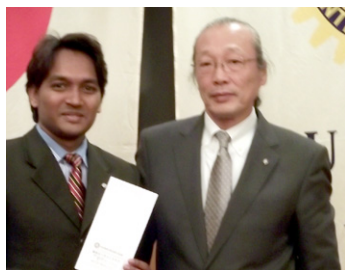
- 小西 啓一君(藤枝南) 河井 宏文君(藤枝南)
- 玉木 潤一郎君(島田)

■ ビジター

- 田中 偉世君(榛南) 曾根 邑志君(榛南)
- 佐藤 成男君(榛南) 丸尾 氣窮雄君(島田)
- 古桑 幸郎君(焼津南) 清水 勲君(焼津南)
- 中野 強一郎君(焼津南) 村松 正一君(焼津南)

渡邊 芳隆君（藤枝南） 稲葉 俊英君（藤枝南）
飯田 敏之君（藤枝南） 竹田 敏和君（藤枝南）
松浦 正秋君（藤枝南） 朝比奈 潔君（藤枝南）
山田 壽久君（藤枝南）

米山奨学生
ダス・プロタープ君
へ奨学金の授与が
ありました



■ 米山奨学生卓話

皆様、おはようございます。大変お世話になっている米山奨学生のプロタープです。2011年の4月からロータリー米山奨学生になって、10ヶ月になりました。この10ヶ月は私の人生のなかでも一番経験のある時間でした。ロータリー米山奨学生として、活動しながら、大学生活も楽しみました。ロータリー奨学金をいただいたおかげで、勉強の時間が増えまして、大学院入学試験も合格しました。4月から大学院生活で頑張ります。

これは人生一つ段階を乗り越えたことでありますが、ロータリー米山奨学生として一番得たことはこれではありません。ロータリー米山記念奨学生になって世話クラブである藤枝 RC の例会に参加させていただいて、今の日本を作り上げてきた方々と交流できたことが一番勉強になったことだと思います。私みたい留学生にとってあなた方みたい優秀な方々を近くから知ることがとても大きなことです。例会などをとおして、皆様と一緒に少しでも時間を過ごして、成功者のタイプをみることができました。私みたい留学生がこの例会に参加するとき皆様から温かい笑い顔でようこそと感じました。皆様と例会に参加させて、色々な経験させていただき、本当にありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

今日は自分の国バングラデシュのことを皆様に少しだけ聞いていただきます。特にバングラデシュの観光所を紹介させていただきます。

南アジアにあるバングラデシュは工業がまだそこまで盛んでもないので、自然性はきれいです。

バングラデシュで三つの世界遺産があります。それ以外も観光所はたくさんあります。まだ、自然の観光所がかなり多いです。

バングラデシュで世界遺産：

- ▣ バゲルハットのモスク都市
- ▣ パハルプールの仏教寺院遺跡群
- ▣ シュンドルボン
- ▣ バゲルハットのモスク都市：15世紀前半、ここを開拓した王、カン・ジャハンにより造営されたモスク群。遺跡内にはモスクやタダルガー（霊廟）など50にも及ぶ建造物があり、そのほとんどがカン・ジャハン様式により建設された。
カン・ジャハン様式は、ムスリム様式とデリーのトゥグルク様式を混合した建築様式であり、トルコ系のウルグ・カン・ジャハン王により提唱された。
中でも、1459年に建立されたシャイト・ゴンブス・モスクは、カン・ジャハン様式を如実に反映しており、ムガル帝国期以前のモスクの中ではバングラデシュ最大規模である。なお、名称の「シャイト・ゴンブス」はベンガル語で「60のドームを持つモスク」を意味しており、その名のとおり、屋根には60のドームが並んでいる。
- ▣ パハルプールの仏教寺院遺跡群：8世紀半ばから、9世紀にかけて建設された仏教寺院遺跡群。バングラデシュはイスラム教国であるが、当時、この地域はパーラ王朝の支配を受け、その時代には仏教が大いに栄えた。これと共に、この地域には多数の仏教寺院が建設され、その最大級のものがパハルプールである。ちなみに、ベンガル語でパハルは「山」、プールは「中核」を意味する。
- ▣ シュンドルボン：インド・ベンガル州とバングラデシュ・クルナ管区南部にまたがって広がるマングローブの群生地帯。バン

グラデシュ側はそのほとんどの地域が政府によって保護されており。1997 年には国際連合教育科学文化機関の世界遺産（自然遺産）に登録された。シュンドルボン（ベンガル語で「美しい森」を意味する。ヒンディー語ではスンドルバンと呼ばれる。世界遺産の以外の有名な観光所はダッカ大学、スリーティー ショウド、ラールバゲル・ケッタ、国会議事堂、アーシャン・モンジールなどです。

■ 外部卓話

高塚 年明様



『外交は武力行使なき戦争』

○なぜ中国は「こん棒」を振り回すのか。

- ・ 19 世紀、20 世紀、21 世紀が混在する原始資本主義国家
- ・ 「指桑罵槐」の世界、法治国家ではなく人治の世界
- ・ 1850 年ごろまでは、中国が世界最大の経済大国であった
- ・ 2050 年には、中国が世界最大の経済大国に返り咲く
(1. 中国、2. 米国、3. インド、4. ブラジル、5. 日本)
- ・ 経済力、軍事力を誇示しながら、外交を進めるであろう
- ・ 尖閣諸島をどう守るか

○TPP は米国による日本囲い込み

- ・ 事実上の完全自由化を目指す日米 FTA
- ・ 食糧安全保障、国民皆保険制度の危機、株主資本主義の蔓延
- ・ 最も危険な投資分野（特に、ISD 条項）
- ・ 2010 年 10 月に管政権が TPP＝平成の開国と言いだした理由
- ・ 普天間基地移設問題と尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件の処理 は戦後最大の外交失

態

○大きく変化する日米中の三角形⇒真の自主外交へ

- ・ 経済力、軍事力を増す中国と相対的に低下する米国
- ・ 防衛力強化を要求する米国⇒自主防衛路線への傾斜
- ・ TPP 交渉に参加しつつ、日中韓 FTA、ASEAN+3、ASEAN+6 の交渉を進めるべき

(高塚年明氏の略歴)

1949(昭和 24)年 1 月

藤枝駅前の富士見町に生まれる

静岡商業高校卒、早稲田大学卒

1979(昭和 54)年 3 月

早稲田大学大学院経済学研究科博士課程 前期修了

1979(昭 54) 年 4 月

参議院事務局入局

予算委員会調査室、決算委員会調査室、外務委員会調査室、国際会議課、国立国会図書館外交防衛課、防衛省防衛研究所などを経て

2009(平成 21)年 3 月

行政監視委員会調査室首席調査員を最後に参議院事務局を退職

在職中、調査のためヨーロッパ、アジア、中東諸国を中心に 25 カ国を歴訪

平成 23 年度静岡県事業仕分けの専門委員

(担当／栗原君)